

豊作や開拓哀史嘘のごと  
白髯の北の寒さや翁の忌  
湖べりの一宿得たり翁の忌  
民芸の蓑笠買はむ翁の忌  
まばたきてふと白き目となりし驚  
一点の火を消さじとす落葉かな  
華人の名参拝帖に神迎へ  
湖の日はどこに落つるや鴨料理  
鴨宿のはなれの客は老作家  
みちのくの雪に肥えたる鴨を捕る  
鴨宿や五つの湖の三つ見え  
皿よごす血をうとみけり鴨料理  
湖は寒しと洩れ日常ならず

枯蔓のみどりの弦を張りにけり  
大空に反りかへり芦枯れにけり  
冬山にガードレールの白き線  
狩人と逢ふ峠道士佐に落つ  
愚かなる犬の寝てをり狩の宿  
油噴く汐木まじれる焚火かな  
フレームの扉は二重露滂沱  
涸れ瀧の礫は音をたてにけり  
道の右側は来る人年暮るゝ

二〇一九年一〇月二九日

G H 勉強会・於西宮市市民交流センター